

# 南魚沼市医療のまちづくり検討委員会 論点整理

第1回委員会分

## ◆テーマその1 市民病院群の今後の在り方について（城内診療所を含む）

- ・魚沼圏域の基準病床数は1109床。既存病床数は1385床。このオーバーベッド状態を解消する必要があるのではないか。
- ・基幹病院を中心とするシステムが信頼できる連携となるにはどうすべきか。
- ・市民病院が医療再編システムの中で連携の中心としてリーダーシップをとるべきではないか。
- ・病院群（2病院、1診療所を含む）は必要か。
- ・理念をもう一度考える必要があるのではないか。
- ・今の公立のままでの再建は難しい。指定管理制にするべきではないか。
- ・市民病院が財政的に自立する必要があるのではないか。
- ・病院再編に対して柔軟に動ける経営形態にするべきではないか。
- ・市民病院と大和病院は統合するべきではないか。
- ・介護病棟という区分にはなるが、受け手の療養は同じなので、大和病院の代わりに介護医療院を設置してはどうか。
- ・一体的にやるのであれば城内診療所はランチ（支所）とするべきではないか。
- ・回復期、リハビリの専門病棟が必要ではないか。
- ・市民病院一般外来のボリュームを減らすにはどうしたらよいか。
- ・市民病院は高齢者の一般急性期のボリュームを減らしていくことができるのか。

## ◆テーマその2 市内の医療・介護人材確保について

### ◎医師確保

- ・個人診療所の閉院（医師の高齢化と後継者不足）を止めることはできるのか。
- ・基幹病院で医師の再生産、総合医の教育を行う必要があるのではないか。
- ・地域で研修医を育てる必要があるのではないか。
- ・医師確保の安定的な体制を作るにはどこと協力したらよいか。
- ・基幹病院がマグネットホスピタルとして機能を発揮する必要があるのではないか。
- ・医師確保の方策として寄附講座を活用してはどうか。
- ・県立病院の再編が進むことから、県立としては少し余裕の出る自治医大卒業医について、南魚沼市への優先的、試験的な配置を新潟県に要望したい。
- ・県のキャリア形成プログラムの活用は必要ではないか。
- ・自前施設での総合医養成する必要があるのではないか。

### ◎医療・介護人材の確保

- ・市内での人材不足状態における対策が必要ではないか。

## ◆テーマその3 保健・医療・福祉のまちづくりについて

- ・基幹病院循環器科の急患受入停止への対策が必要ではないか。
- ・介護施設入所者を市外施設へ出さないようにする必要があるのではないか。
- ・市議会としての役割を果たす必要があるのではないか。
- ・在宅医療の中心としてのクリニック（診療所など）を増やしていく必要があるのではないか。
- ・魚沼地域をひとつの病院として無駄のない連携が必要ではないか。
- ・市長には地域づくり推進協議会などに検討委員会の話題を提供していただきたい。
- ・病院職員など市の職員に参画してもらってオール南魚沼で進めていくこと必要があるのではないか。
- ・基幹病院の「地域包括ケア病床」と共存は可能か。
- ・在宅での看取りが多くできるようになることが必要ではないか。
- ・医師不足からの診療制限とならないよう検討することが必要なのではないか。
- ・在宅療養にむけて退院を促進させるための仕組みが必要ではないか。